



# 今月のお知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

## さわやかサロン

日時：2月9日（木）13時30分～

内容：みんなで手わやく

簡単な作品を作りながら  
みんなでおしゃべりしましょう！

## 手話教室

日時：2月15日（水）19時30分～

持ち物：筆記用具

「手話で簡単な日常会話、  
子どもから大人まで  
楽しく学びましょう」



## ペン習字(いきいき)教室

日時：2月20日（月）13時30分～

内容：「絵手紙」「実用的な書」など

準備：筆ペン

～いつでも、どこでも、  
誰でも、楽しめること。～



## みんなの楽級

日時：2月26日（日）13時30分～

内容：音楽鑑賞会

「みんなで聴こう さんしん三線の響き」

演奏：谷本 安広さん

沖縄の響きに耳を傾け文化に触れる。  
美しい音色をとおして、沖縄の魅力を感じてみませんか？

## ゆとり教室

日時：3月20日（月）11時00分～

場所：上米積 老人憩いの家

法話：阪本 仁さん

「一緒に生命の大切さを考えましょう」

事業は、感染症対策を充分  
行ったうえで開催いたします。

## 倉吉市人権教育研究会 会員募集中

身近な人権課題に学び実践化につなげましょう。

年会費 1,000円 ※入会特典があります。

申し込み方法：会費を添えて右記へお申し込みください。

(随時受付しています。)

申し込み先：

○さわやか人権文化センター ☎28-2017

○倉吉市人権教育研究会事務局（人権政策課内）  
☎22-8130 / fax23-9100

○倉吉市人権文化センター ☎22-4768

○やまびこ人権文化センター ☎28-4265

○はばたき人権文化センター ☎22-0232

○あたごふれあい人権文化センター ☎28-5440

## 困りごとはありませんか？ 人権が侵害されていませんか？

悩みごと・生活に困っていることがあり  
ましたら、どんなことでも、1人で抱え  
こまずにご相談ください。

倉吉市役所人権政策課  
さわやか人権文化センター

差別落書きや差別発言などに遭遇しま  
したら、倉吉市人権政策課もしくは人権  
文化センターにご相談ください。

電話 22-8130  
電話/fax 28-2017

さわやか人権文化センターだより



2023年2月1日発行 No.340

【発行所】さわやか人権文化センター

【所在地】〒682-0602

倉吉市上米積 1074-1

【電話兼ファックス】0858-28-2017

【メールアドレス】sawayaka@ncn-k.net

センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をお寄せください。

## みんなの楽級 音楽鑑賞会

# 「みんなで聴こう 三線の響き」

2月のみんなの楽級では、講師に「とっとりかりゆし」  
店主、谷本 安広さんを迎え、音楽鑑賞会を行います。

普段なかなか触れる機会のない三線の響きを間近で聴  
き、沖縄の文化に触れてみませんか？

日時：2月26日（日）13時30分～

場所：さわやか人権文化センター



## 谷本 安広 さん プロフィール

1965年湯梨浜町生まれ。

46歳の時、沖縄三線との出会いを契機に沖縄の方々、全国の三線愛好家と交  
流が始まる。

9年前、倉吉市のチャレンジショップにて沖縄物産、三線販売を始める。1年後、  
現在のパークスクエア食彩館に店舗移動。食堂を中心に、三線の販売や教室、  
イベントの企画運営、講演や演奏活動を行っている。

## 三線 (さんしん)

三線は、沖縄の楽器として知られている弦楽器。音色がよく、三線ひとつ  
で歌って弾いて楽しみ、沖縄が持つ豊かな自然、文化を感じることができる  
楽器です。



太さの違う3本の弦をはじくと、独特なやさしく温かい響きを奏でます。温かい響きを  
産み出す胴の部分は、木で作られ、「筒」と呼ばれています。そしてその筒に張られてい  
るのは“ニシキヘビの皮”。人間から恐れられているあのニシキヘビの皮が、職人の手に  
より沖縄音楽を成り立たせる楽器になるのです。

三線は沖縄がかつて「琉球」と呼ばれていた時代に中国から伝わったと言われています。琉球王国の宮廷  
では三線がはやり、歌の伴奏に使われるようになり、次第に一般の沖縄庶民の間でも広がりを見せ始めまし  
た。そして今では、三線が奏でる音色は、沖縄の日常では外せない音色となっています。

美しい音色にあわせて、弾く演者も、見物人も、自由に踊り、歌う。明確な区別をつけずに、その  
場にいる人間が楽しむ、現代の日本を生き延びる中で、なかなか見られない光景が見られる沖縄音楽。  
そんな沖縄音楽の歴史や魅力、そして三線についてなど、沖縄の音楽についてご紹介していきます。

# 学習会 1年間がんばったよ!

## 久米中学校学習会閉講式

2022年度の久米中学校地区学習会の閉講式が12月21日(水)に行われました。

生徒の皆さんは1年間の学習を振り返り、年度当初に掲げた目標の達成具合や来年度に向けた希望などを、それぞれの思いを込めた意見発表をしました。



## 中学生の発表(要旨)

「私はこの1～2学期で成長した所は、みんなをまとめる力がついたと思います。学校祭・運動会を通じてすることができたと私は思っています。なので、これを3学期でも続けて、行事をとおして授業が活発になるよう努力していきたいです。」

「勉強面では、友達と教え合うことができました。」

「学習会で学んだ思いやりを学校生活でもつかいたいです。」

「私が学習会で成長したことは、戦争や差別で困っている人を他人事だと思わず、自分ができることを考えられるようになりました。」

「差別されていた人は、どんな差別をうけていたのかを調べたり、話を聞いたりして、人の気持ちがなんとなく分かるようになりました。これを、人が困っていたりしたら、その人の気持ちに合わせて話すことに活かしていきたいです。」

「人と話すときは、ちゃんと言葉の意味を考えて話すということを大切にしていき、手を取り合って助け合えるような友達をつくることを目標にしていきたいです。」

「今年、成長したと思うことは、自分の意見をしっかり持ち、自分なりの言葉で相手に伝えることができるようになったということです。」

「人権フェスティバルをとおして成長したと思います。フェスティバルをとおして、学んだことをしっかり理解してまとめたり、自分の意見がより深くなったり、相手に伝わりやすいように伝えることができましたと思います。」

「学習会で学んだ周りの人々の大切さや人を思いやる心、戦争の悲惨さを心に留めておくことが大事だと思います。」

「普段の生活でも、差別をなくしていくために、自分のできることを考えながら生活したいです。」

「自分の成長は、以前に比べて積極的に意見を出したりすることがとても多くなってきたことです。今では発表することが楽しいと感じるときもあります。」

「私がこの学習会をとおして成長したことや感じたことは、人権意識が高まったことです。」

「中学生になってから、人権について、鋭くなりました。」

「私は私なりに、いじめや差別があったら、それに気づき、そして行動できる、そんな人でありたいです。」

「学習会をとおして学んだことを学校生活につなげて、私が問題解決できるぐらいの存在に成長したいです。」

生徒の皆さんは、教科学習、人権学習、調査活動などを通してたくさんの方のことを体験し、仲間の大切さ、お互いに支えあう「絆」を強く意識した発表で、子どもたちの1年間の成長は素晴らしく心に響く発表でした。

これからも地域全体で、子どもたちの健やかな成長を見守り育てることに、ご支援、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

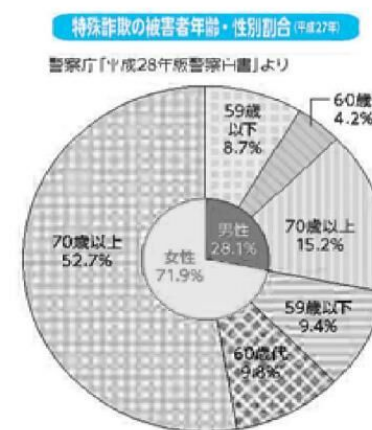
# 高齢者の人権問題

## ～特殊詐欺の被害から考える～

### 【2022年の特殊詐欺被害 鳥取県は件数、被害総額とも過去2番目の多さに】

去年1年間の特殊詐欺発生状況について、鳥取県では被害総額・件数ともに過去2番目の多さとなりました。鳥取県の被害件数は51件、被害額は1億3481万円で、ともに前年より増加し、いずれも過去2番目の多さとなりました。

このうち、最も多かったのが架空請求詐欺で26件、被害額は9823万円。次いで、還付金詐欺で16件、被害額は2544万円でした。(「鳥取県警察本部統計資料」より抜粋)



### 高齢者の人権問題

法務省人権擁護局の人権啓発冊子(平成二九年三月)には、「高齢者の人権問題」として左記のようなデータがあります。

悪徳商法や振り込め詐欺のほとんどは、高齢者を狙っており高齢者の身体的・精神的な弱みにつけこんだ卑劣な犯罪が後を絶ちません。

言葉巧みに高齢者の不安をあおったり、親切な態度で信用させたりして、これまで懸命に築き上げてきた大切な財産を搾取する事は、本当に許せないことであり、重大な犯罪であると同時に極めて深刻な人権問題と言えます。

冒頭の被害状況からも分かるように、今、このようにこれだけ話題になっているにもかかわらず、どうして高齢者の被害は減らないのでしょうか…。その要因は、高齢者の生活状況が深く関係していると言われています。その一つは、一人暮らしの高齢者の増加が指摘されています。一人で暮らすことにより、詐欺電話がかかってくる、すぐに相談する相手がいないので、判断を誤りがちです。二つ目は、体力の低下です。外に出るのが億劫に感じると、地域との関わりが薄れてしまい、最新情報や地域の話題が届きにくいことが考えられます。三つ目は、孤立しがちな生活です。わたしたちは、日々、誰かの支えになったり、支えられたりしながら社会生活を送っています。周りとの関りが少なくなればなるほど、被害に遭う率が高くなると言えます。

このように、現在の高齢者の置かれている生活状況が、特殊詐欺事件の人権問題とも大きく関わっていることが分かってきています。

### 社会参加と生きがい

平均寿命の大幅な伸びにより、人生百年時代と言われています。先の啓発冊子では、高齢者に「何歳まで仕事をしたいですか」と調査したところ、「働けるうちはいつまでも」と回答した人が、全体の三分の一でした。

働きたい理由は、①経済上の理由 ②生きがい・社会参加のため ③健康維持 ④時間に余裕があるからの順です。②はまさに、人とのつながりを求めていることを意味しています。高齢者が求める社会参加・人との関わりを社会の中で作り出していく努力は、高齢者の人権を大切にすることにもつながります。とりわけ、高齢者の問題が人と人とのつながりが希薄になっていることに起因しているのものと考えると、社会全体で真剣に取り組むことが大切だと言えます。

